

# 数学

東京大学 (前期・文科) 1/1

## <全体分析>

試験時間	100 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

### 解答形式

全問記述式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

問題ごとの難易傾斜は昨年よりも緩くなった。昨年の第 4 問のように極端に難しい問題がなくなった一方、楽に完答できる問題は減少した。

### 出題の特徴

第 1, 2 問は「計算力」のテスト, 第 3, 4 問は「思考力」を試す問題とはっきり分かれた。

### その他ピックアップ

文理で完全に共通な出題はなくなった。

昨年よりも整数問題の難しさは抑えられた。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第 1 問	2 次方程式・関数 平面座標	数学 I 数学 II	直交 2 直線の傾きを 2 解に持つ 2 次方程式 2 線分の長さの比の処理法	やや難
第 2 問	3 次方程式 微分法	数学 II	(1) の因数分解に気がつくか, そこが前半のカギ	標準
第 3 問	整数 数列の漸化式	数学 A 数学 B	(1) まず $n=1, 2, \dots$ と実例を調べる (2) 2022 などの素因数分解に注目	やや難
第 4 問	確率 ベクトル	数学 A 数学 B	問題文に記されたルールを正しく「解読」して定式化 するまでが考えどころ。	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

まずは「標準的な手法」を十分身につけること。それを実行する計算力も必要。  
図形の計算問題では、計算力はもちろんのこと、図形的考察を加える態度も望ましい。  
その上で、さらに整数・数列・場合の数と確率などの分野で、理系のトップレベル問題に立ち向かえる能力があれば、なお心強い。